

中国人学生ら座談会

劉教授「国民レベルの相互理解を」

愛知大学

豊橋地区日中友好協会(伊賀太吉会長)は25日、来日中の中国人学生と愛知大学(豊橋市町畑町)の学生らと交えた座談会を同大で開いた。将来を担う両国の若者が直接意見を交わす貴重な機会となった。

参加したのは同協会の会員と、今月21日から「日本社会調査」の名目で日本を訪れている中国北京にある中国労働関係学院の学生、愛大現代中国学部の学生ら

合わせて38人。

はじめに、同大の

国際交流センター所長

を務める劉柏林教授

が「政府レベルでの日

中関係は微妙だが、ま

ずは国民レベルでの

相互理解が重要」と

あいさつの中で会の意義を述べた。

座談会では、同大

の今泉潤太郎名誉教

授が「愛大中日大辞

典から見る日中友

好」と題し、同大が

日中文化交流の懸け

橋となるよう編纂し

てきた中日辞典の作

成経緯や中国におけ

る日本への関心の高

まりを、時代背景と

ともに紹介した。

同協会からは、伊

賀会長を含む4人の

会員が、協会の概要

や活動内容を報告。

中国人留学生との交

流事業や、豊橋市が

中国江蘇省の南通市



座談会の様子 (豊橋市町畑町の愛知大学で)

と友好都市提携を結んだ経緯などについて詳しく話した。
(三浦ゆかり)